

木造民家を活用した通所介護施設の平面構成の違いによる使われ方の比較

- 山口県阿武町における事例分析 -

高齢者デイサービス 小規模施設 空き家活用  
改修 使われ方

正会員 ○三島 幸子\*  
正会員 中園 眞人\*\*  
正会員 山本 幸子\*\*\*

1. はじめに

過疎地域の自治体においては、地域の人口減少と高齢化が同時進行している。最近では既存施設や民家等を活用した小規模な通所介護施設の整備が進んでおり、軽費で開設出来る利点のみでなく、地域に根ざした福祉拠点としての有効性が注目されている。その中で山口県阿武町では広域基幹施設とともに、小規模な通所介護施設が整備された。その結果各旧町村に1施設の小規模施設が配置され、広域基幹施設と小規模施設のネットワーク構築を進める先進事例として注目されている。

本報では木造民家を活用した小規模施設「えんがわ」、「ひだまり」、「田中さん家」の3施設を対象に、使われ方調査結果をもとに活動プログラムと活動場面の分析を行い、平面構成と使われ方の関係について分析を行う。

調査は第1に平面図の実測調査と家具配置を記録した。第2に活動場面記録調査を行った。「えんがわ」が平成21年12月9日-12月13日の5日間、「ひだまり」は平成21年11月16日-11月20日の5日間、「田中さん家」平成21年11月3日-11月7日施設内を終日(午前9時から午後5時)10分間隔で利用者及びスタッフの行動観察を行い、行為内容及び行為場所を平面図上に記録した。

2. 施設概要

3施設の平面図を図1に示す。「えんがわ」は続き間4室を中心とし、DKが廊下を挟んで位置している。改修は玄関のスロープの設置、給排水設備及び電気工事である。「ひだまり」は1階の内外装がほぼ全改修され、玄関ホール、台所、居間がワンフロアになっている。「田中さん家」は台所、茶の間と続き間座敷が独立している。改修は手すりの設置のみである。

3. 利用者の1日の行動パターン

3施設のプログラムの1例を図2に示す。「えんがわ」では全てのプログラムを同じ部屋で行っているため、体操、昼食、午睡、レクリエーション、おやつの前に家具移動を行っている。利用者は朝来所して自分の好きな席へ座り、近くの席の人とお話して過ごしている。ソファか椅子の2種類から選べるが、スタッフは利用者に合わせて椅子とソファを交互に座らせるようにしている。また、午睡の時間も決まっており、昼食が終わるとスタッ

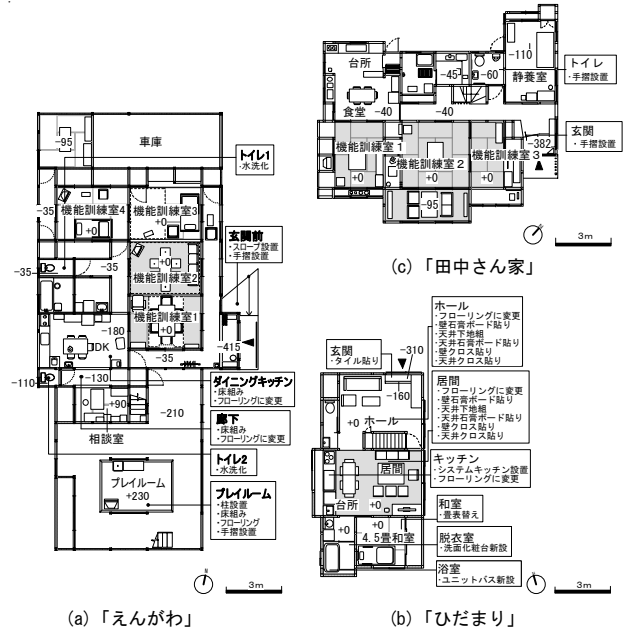


図1 平面図

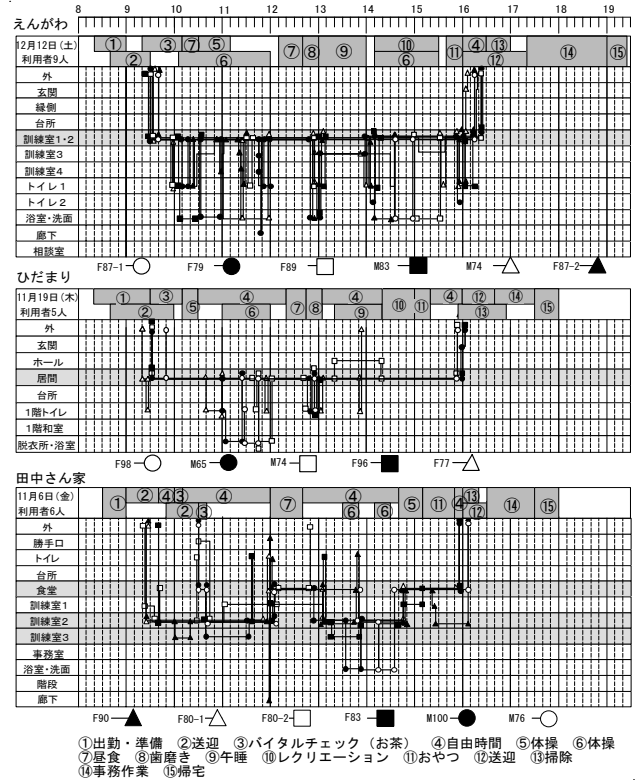


図2 プログラムと利用者の居場所

フは機能訓練室 3 の机を端に寄せてカーペットを敷き、布団を用意して機能訓練室 2, 3 で午睡を行っている。介護度の高い利用者は機能訓練室 3, 4 のベッドを利用している。レクリエーションでは家具移動をして空間を広くしお手玉積みなど簡単にできるものを数種類行っている。

「ひだまり」では空間が狭いため、居間で全てのプログラムを行っている。体操やレクリエーションを行う際も利用者同士の間を少し開けて動きやすくし、その場に座ってできることをしている。主に席移動は昼食時のみでそれ以外はトイレや入浴以外動くことはほとんどない。また、ホールにソファ、和室にベッドを置き、午後利用者が自由に午睡を行えるようにしている。

「田中さん家」ではキッチン、ダイニング、茶の間と独立して続き間座敷があるため、プログラムに応じて部屋の使い分けを行っている。自由時間は機能訓練室 2, 3 を利用し、昼食、体操、おやつの時間は食堂と機能訓練室 1 を使用している。自由時間はソファ、床座、ベッドから選べ、利用者は好きな席に自由に移動している。スタッフも常に一緒におり、スタッフも交えて利用者同士お話ししたり、マッサージ器具でマッサージを行ったりしている。昼食時は部屋を移動し、2 部屋に分かれて行っている。昼食後キッチンが近いため、利用者の介護度が低いこともあり、食器を片づける手伝いをしている姿も見られた。食べ終わった利用者から移動し、スタッフが毛布を準備し、時間は決められていないが自由に午睡を行えるようにしている。また、1 日食堂や機能訓練室 1 で過ごしている利用者もいる。

#### 4. 自由時間・体操・昼食の様子

3 施設の自由時間、体操、昼食の様子をそれぞれ図 3, 4, 5 に示す。「えんがわ」は自由時間では利用者は好きな席に座って利用者同士やスタッフとお話ししたり、くつろいだりしている。体操の時間になるとスタッフは家具も移動してから体操を行っている。家具移動には 5 分程度時間を要している。昼食時には機能訓練室 3, 4 から机と椅子を運び利用者の席の順番を考えながら配置している。家具移動で 10 分程度、料理をキッチンダイニングから運ぶためさらに時間を要している。

「ひだまり」ではバイタルチェックの後すぐに体操を行っている。居間空間が狭いため、その場に座ってできることをしている。その後も席移動することなく、利用者はそれぞれの時間を過ごしている。昼食時はほとんどの利用者が居間のダイニングテーブルに移動し食事している。席が不足している場合は 2 つのテーブルに分かれて食事している。

「田中さん家」では自由時間は機能訓練室 2, 3 でスタッフも一緒にお話ししたり、折り紙をしたりしている。

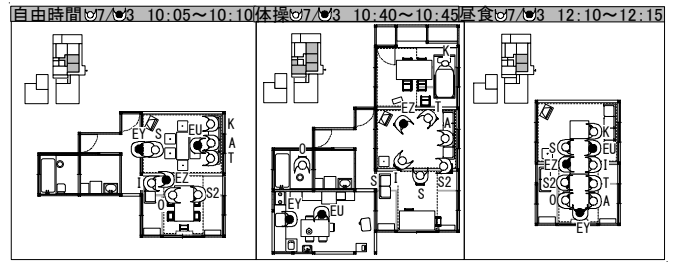


図 3 「えんがわ」の自由時間と体操、昼食の様子

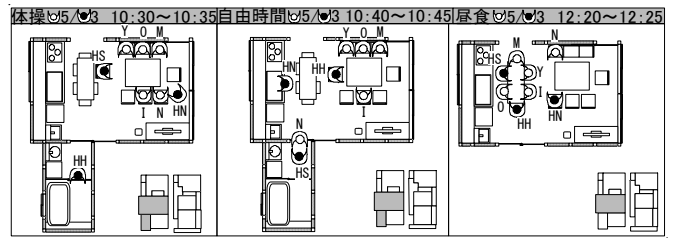


図 4 「ひだまり」の自由時間と体操、昼食の様子

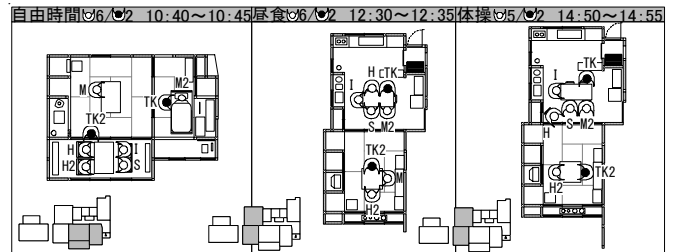


図 5 「田中さん家」の自由時間と体操、昼食の様子

ソファやベッドが設置しているため、床座、椅子座、ベッドが選べる。昼食は食堂と機能訓練室 1 に分かれて行っている。席は利用者の様子に合わせてスタッフが決めている。体操も機能訓練室 1 に移動してから行っており、利用者の気分転換にもなっている。また機能訓練室 1 と食堂で行う利用者があり、2 つのゾーンを一体化して行っているため、利用者は椅子座と床座が選べるようになっている。

#### 5. まとめ

3 施設を比較すると、ダイニング、キッチン、茶の間と続き間座敷が独立している平面構成の場合は部屋の使い分けがしやすい。一方でリビングと続き間座敷が一体の平面構成の場合は部屋の使い分けが難しく、家具移動の必要が出てきている。さらに居間空間が狭い場合には家具移動も行われず、利用者は同じ席で過ごしている。

#### 参考文献

- 1) 中園真人, 山本幸子, 加登田恵子: 街なかの伝統民家を再利用した地域福祉施設「さんコープ河村邸」の使われ方—定期借家方式による民家再生システムに関する研究—, 日本建築学会計画系論文集, N0. 652, pp. 1581-1588, 2010. 6

\* 山口大学大学院

\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士 (工学)

\*Graduate Student, Yamaguchi Univ.

\*\* Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng

\*\*\* Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.